

令和3年度 学校評価(自己評価)

具体的目標および評価の観点		評価と課題
今年度の重点目標	①生徒を真ん中に置いた少人数、個別指導に努め、生徒の自立と社会性の伸長を図る。	おおむね達成できた。
	②体験的・探求的学習の充実を図り、授業改善による学力の向上、定着を目指す。	生徒に寄り添った授業ができている。さらに授業方法の研究ができればよいと思われる。
	③人権・生命を尊重し、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりに努める。	生徒の不安や苦しみを全職員が共有できている。
	④校外資源を積極的に活用し、保護者地域から信頼される学校づくりを推進する。	生徒が地域行事に参加する中で、自ら計画し提案する機会になればよいと思われる。

領域	重点目標	評価項目	具体的目標および評価の観点	評価	成果と今後の課題
学習指導	①基本的学習習慣の確立	1	生徒に学習意欲を喚起することができたか。	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 工夫した教材を使用し、学習意欲の喚起に努めた。 生徒一人ひとりへの学習支援を、できる範囲で行った。 分かりやすい授業のための研修に、今後も努める必要がある。 さらなる学習意欲の喚起や成績上位者への指導等の課題も残っている。
		2	生徒の状況に応じて個別指導や学習支援ができたか。	A・ B ・C・D	
進路指導	②わかる授業の実践	1	少人数を生かした授業を展開できているか。	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 工夫した教材を使用し、充実したキャリア教育を実施できた。 コロナウィルスの影響で実施が危ぶまれたが、職場体験を実施することができたのは大きな成果であった。 進路希望調査を毎月実施した。例年2年次の2月に実施していた「職業適性検査」を10月に実施した。進路意識を高めるための取り組みであった。
		2	生徒の目的意識を明確にし、納得のゆく進路選択が図られるよう進路相談を行うことができたか。	A・ B ・C・D	
生徒指導	①問題行動への対応	1	問題行動に適切に対処し、校則を守る意識の向上が図られたか。	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の特性を踏まえた上での対応は非常に難しかったが、係で協力し取り組めた。 支援が必要な生徒の洗い出し、支援会議、全職員への周知が適時適切に行われたと思います。 概ね良好であった。家庭との連携をさらに密にできるように努めたい。 スクールカウンセラーの活用については、担任や養護教諭から勧めたり、本人からの依頼を受ける等、十分に活用し支援を行うことができた。
		2	人権に配慮し、生徒にとって居心地のよい雰囲気を作れたか。	A・ B ・C・D	
特別活動	①生徒の自主活動の促進	1	生徒会活動を通じ、生徒の自主性を育むことができたか。	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染拡大の影響で生徒会関係行事が中止や縮小されたり、新たな活動が行いにくかったり、部活動が一定期間休止になる状況の中で、主体的な取り組みはどうしても少なくなってしまう。そのため、生徒の個性や創造力を十分に発揮させることができなかった。 その一方で、放課後の挨拶運動など新たな活動や、コロナ感染対策を考えながらの文化祭では、生徒の自主性を尊重した活動を行うことができた。
		2	既存のクラブ活動を活性化させるとともに、生徒の自主的な活動を支援できたか。	A・ B ・C・D	
教育課程	①個に応じた選択科目の設定	1	本校の現状に即して、選択科目の見直しを含めた教育課程を検討することができたか。	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 新3年生の状況を把握したうえで選択科目の見直しを検討したが、教員数や持ちコマ数の関係から選択科目の選択肢を増やすことは出来ず、ほぼ例年通りの選択科目となったことは今後の課題である。 学校での職員研修や個々の先生方の工夫により、ICTを活用したり独自教材を作成するなどして、少人数制やコース制の授業をさらに充実させることが出来た。
		2	生徒の希望する進路に応じた指導はできたか。	A・ B ・C・D	
運営	地域との連携	1	これまでの授業内容を一層充実させ、生徒が満足できるように指導できたか。	A・ B ・C・D	<ul style="list-style-type: none"> 残念ながらコロナウィルスの蔓延により授業公開がほとんどできなかった。しかし、生徒による課題研究の発表に対して、学校評議員会では高い評価をいただいた。職員には励みになった。 探求の授業では、地域資源を利用して、充実した学習を展開することができた。小学校でのボランティアも行い、地域との交流も行っている。 今後はさらに多くの学年が積極的に地域と交流し、充実した教育活動の実践につなげたい。
		2	地元中学校からの進学者の増加を目指し、本校についての理解を深めてもらえるよう、積極的に働きかけることができたか。	A・ B ・C・D	

*自己評価: A 十分 B おおむね十分 C やや不十分 D 不十分
(各具体的目標および評価の観点について上記A~Dのいずれか評価する)